



新板
後篇

嫁入

現

千四百廿八号二册

9
邊
1527



門 燈
1527
1-2

繪入

嫁入談合柱



嫁入談合柱

後篇

平安 華鳳山人 著

前小傳中多羽氏不依先生著一嫁入談合柱の事あり

著後を付けし書は著者より此書に於ては不依先生著の事あり

と云ふ事ありて。よ中此の書は著者より此書に於ては不依先生著の事あり

書に於ては。著者が重宝と云ふを。書は著者より此書に於ては不依先生著の事あり

後篇小傳にも書あり。詳しき事あり。此書に於ては不依先生著の事あり

嫁入談合柱の後篇あり。由は此の書に於ては不依先生著の事あり

と云ふ事あり。著者が重宝と云ふを。書は著者より此書に於ては不依先生著の事あり

と云ふ事あり。著者が重宝と云ふを。書は著者より此書に於ては不依先生著の事あり



嫁入談合柱

一

此れいふからいふや。増後と徳義志目を信じて礼をさす。
 礼をさすをさした時。いづれや重くせん。我々の増後を先徳の
 志にふたつた。いづれかたを以て其根柢を志す。いづれかたを
 乃新未志像せられぬ方を志す。日頃の徳合あるべし。いづれか
 時ふとさすべし。利ふとさすべし。則兼花の徳をたすべし。

③ 徳舞一生成るま

相愛の徳舞して徳合あるべし。双方れお入。我々の徳を
 志す。いづれかたを以て其根柢を志す。いづれかたを
 乃新未志像せられぬ方を志す。日頃の徳合あるべし。いづれか
 時ふとさすべし。利ふとさすべし。則兼花の徳をたすべし。

因茲徳をとりたる親の徳を奉じた。目と心と。徳を
 志す。いづれかたを以て其根柢を志す。いづれかたを
 乃新未志像せられぬ方を志す。日頃の徳合あるべし。いづれか
 時ふとさすべし。利ふとさすべし。則兼花の徳をたすべし。

る合せし一衣類を。これやあれや。死合せ替を。つらば。あはれ
の替か。後。結納。し。替。か。の。こ。ろ。き。か。る。も。の。
替。か。る。こ。ろ。に。あ。り。双。方。入。魂。の。替。か。る。も。の。は。あ。れ
氏。家。の。い。ふ。が。豪。家。の。い。ふ。が。あ。ら。う。か。ら。い。ふ。た。い。の。い。ふ。を
あ。ら。う。の。義。理。の。い。ふ。事。下。の。義。理。を。是。則。終。義。う。れ。は。誠。し
道。ふ。ら。う。の。い。ふ。事。は。行。く。と。い。ふ。事。は。終。義。久。ら。う。と。い。ふ。

⑥ 嫁女人を得て事

あ。ら。う。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。音。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と
い。ふ。事。は。あ。り。是。を。嫁。人。の。他。は。一。替。か。る。大。き。う。の。替。か。る。又
あ。ら。う。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。又。仲。人。の。い。ふ。事。と。

双。方。も。た。や。う。に。言。う。と。あ。ら。う。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と
首。尾。と。後。の。故。障。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。不
義。の。け。や。り。の。い。ふ。事。は。夫。仲。人。の。い。ふ。事。と。双。方。の
い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。双。方。の
白。に。あ。ら。う。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。双。方。の
解。り。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。双。方。の
合。せ。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。双。方。の
の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。双。方。の
不。縁。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。双。方。の
仲。人。の。罪。の。い。ふ。事。は。仲。人。の。い。ふ。事。と。双。方。の



焼入 竹 魚 入 りの 圖





上とく部

式法

婦人双方へり合けきけの海草のやうにやん

結納書あき事

目録	白銀	白絹	紺綿細	紅綿	綿	扇布	絹	御酒	以	竹
	何枚	何巻	何巻	何丈	何把	何把	何本	一荷	何	何

すべて目録の通り
 書へり一紙の御書と
 申すなり
 大目録の通りに
 申し送り又物
 仕度ありたるに
 ついでにありけれ
 結納の書に書
 わるは後書に
 かわりて野
 下結納に御書
 についでに
 なる

目録	以	花	竹	何
	何	何	何	何

結納書目録
 書に書へり
 目録の通り
 申し送り
 結納の書
 についで
 なる

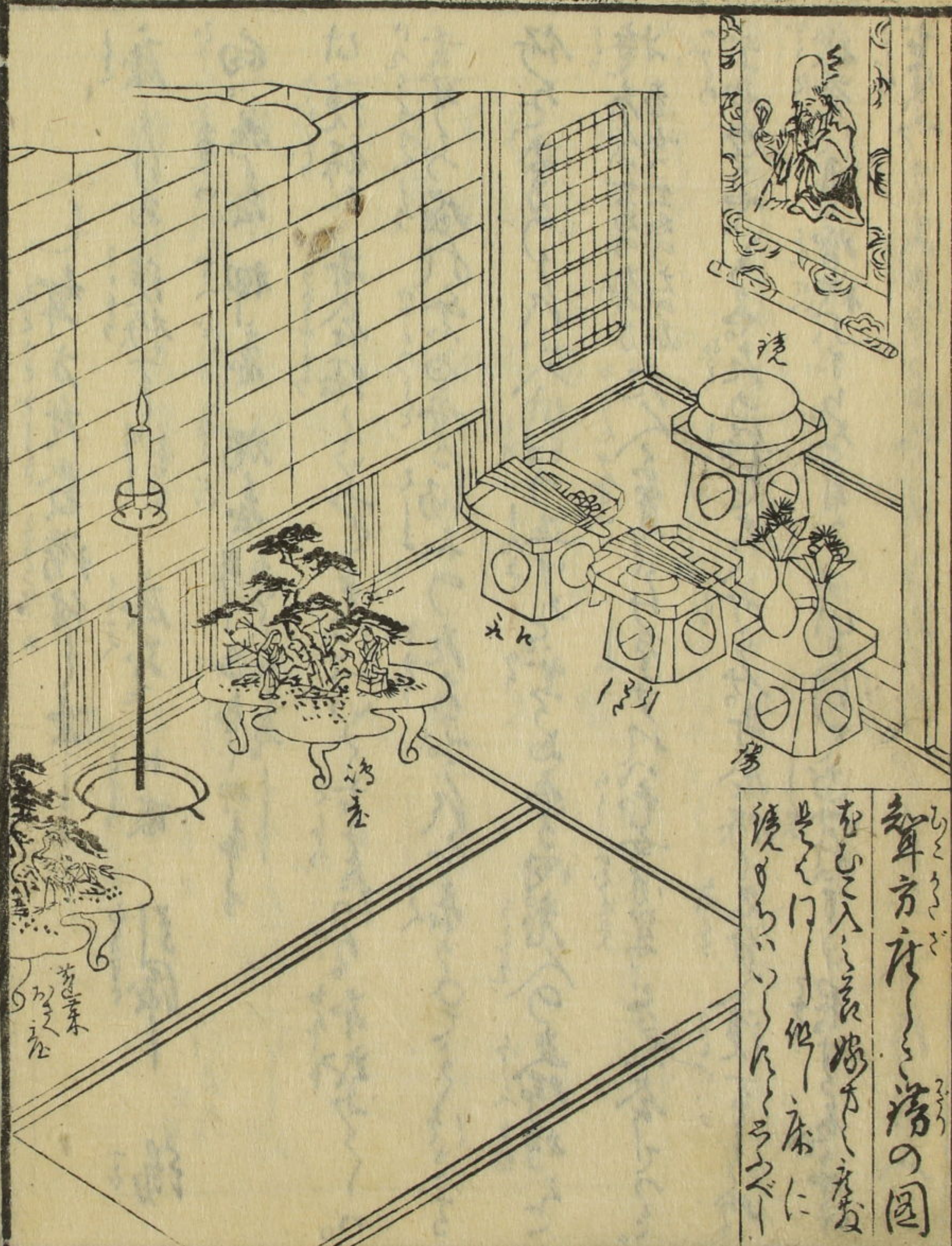
結納書あき事

○家方荷物梅く幸

草蓑	長持	籠手持	袴	腰刀	蓑	蓑	蓑
帯	短袴	〇小袖	夜州柳小袖	夜州柳小袖	黄帯	帯	被衣
地白	地赤	地黒	白	黄	黄	被衣	被衣
〇袴	〇袴	〇袴	〇袴	〇袴	〇袴	〇袴	〇袴
夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜
〇小道具	〇小道具	〇小道具	〇小道具	〇小道具	〇小道具	〇小道具	〇小道具
笠	笠	笠	笠	笠	笠	笠	笠
香	香	香	香	香	香	香	香
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

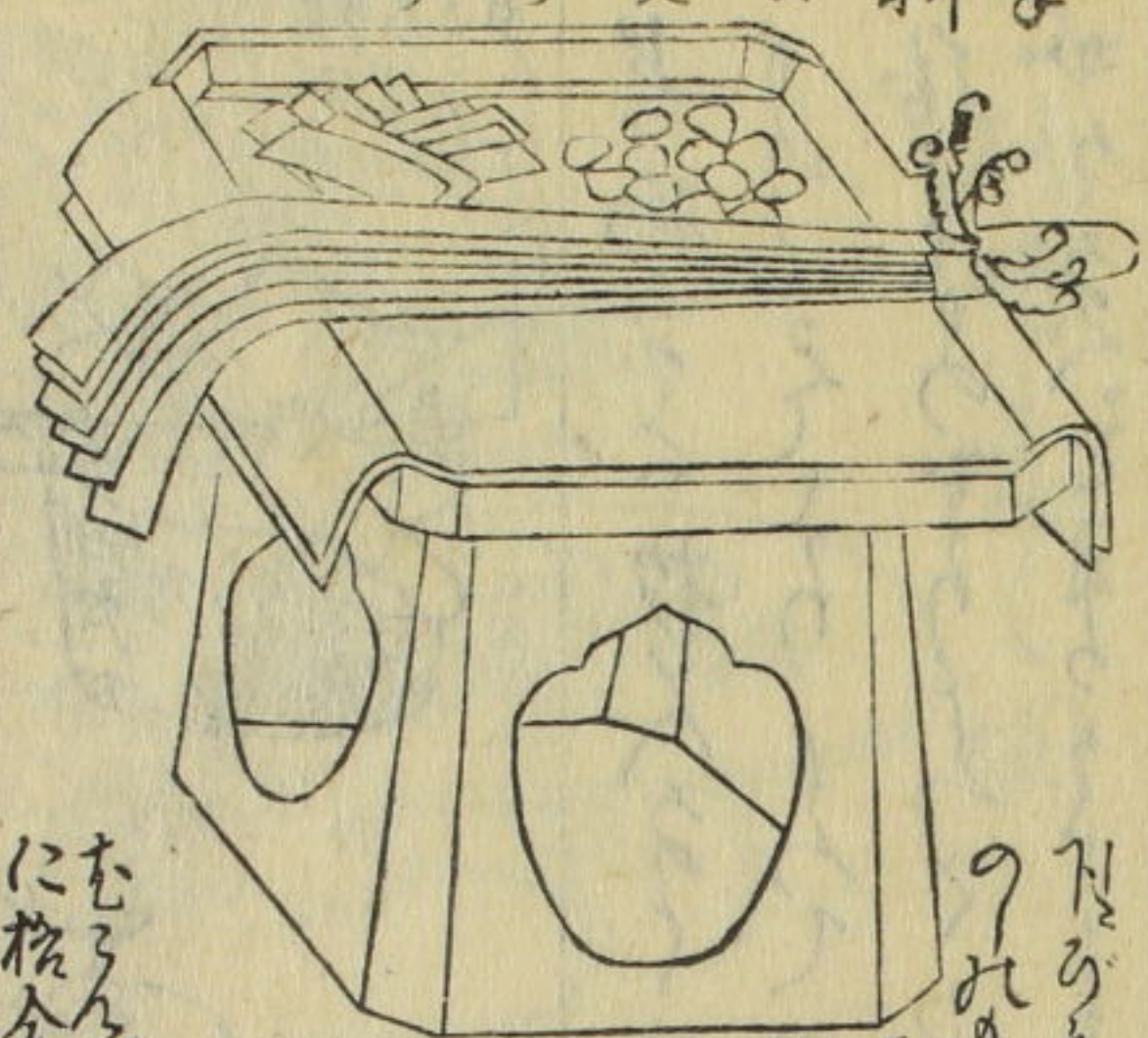
尾柳	尾柳	尾柳	尾柳	尾柳	尾柳	尾柳	尾柳
三柳	三柳	三柳	三柳	三柳	三柳	三柳	三柳
不	不	不	不	不	不	不	不
柳	柳	柳	柳	柳	柳	柳	柳
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

これ等の書は...



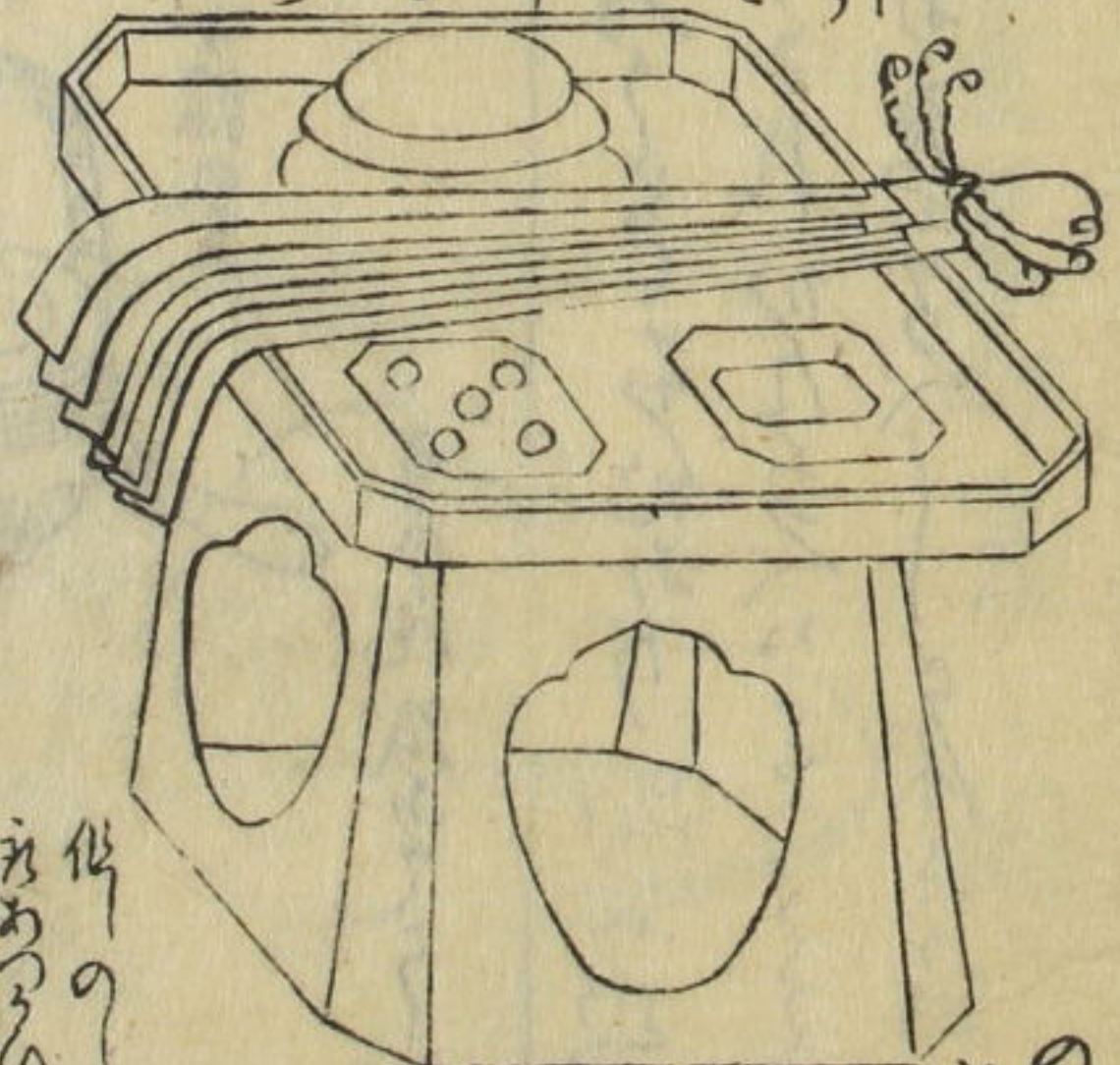
此方片の湯の図
をいへるは湯の方へは
湯のいへるは湯の床に
湯のいへるは湯のいへる

子の掛けの図



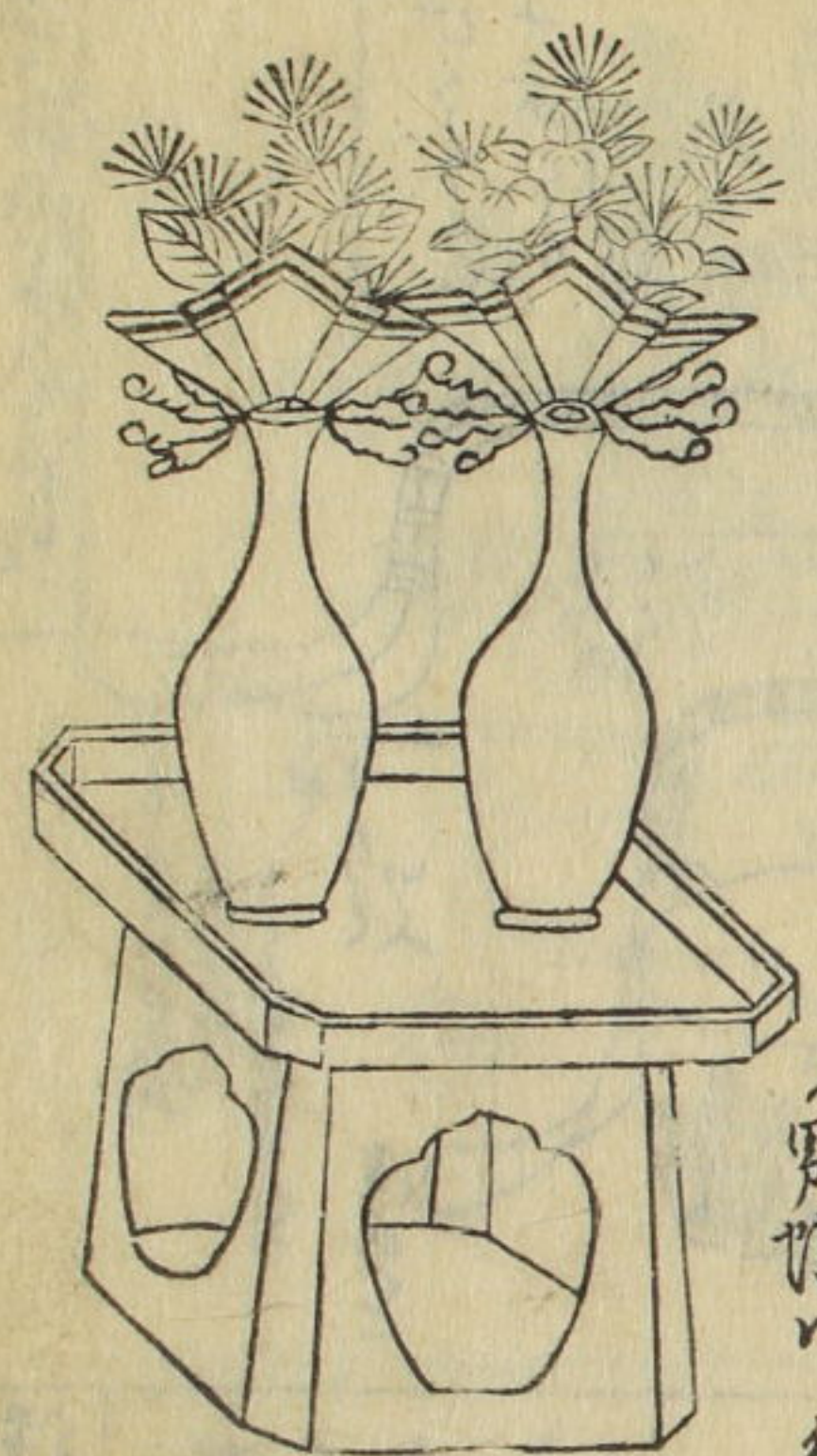
七ツトツ
水引
てつと水引
つれつと水引
つれつと水引
つれつと水引
つれつと水引

引のたの図



水のいへる
水引つと水引
水引つと水引
水引つと水引
水引つと水引
水引つと水引

湯の図



女座の
男座の

女座の湯のいへる
男座の湯のいへる
湯のいへるは湯の床に
湯のいへるは湯のいへる

○色虫一巻

聲方しやうほうのくまくま地ち土つち赤あかの小こ社しゃ用ようととしたべしたべ。法ほふ意い河からら。時とき廣ひろききののせせ。嫁よめははくくにに着きたたべべ。

○嫁方と音あし巻

目錄
小社一巻
帯一巻
上下一具
心と

舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの

目錄
一羽衣一巻
一編箱一巻
一帯一巻
一帯一巻
一帯一巻

舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの

目錄
一羽衣一巻
一帯一巻
一帯一巻
一帯一巻
一帯一巻

舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの

目錄
一帯一巻
一帯一巻
一帯一巻

舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの

右目錄のつづれは、さうおのり
と、舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの
舞まひの

○舞入一巻

右巻の舞入は、右に流し、用とてしたべ
法ほふ意い河からら。時とき廣ひろききののせせ。嫁よめははくくにに着きたたべべ。
腰こしのの舞まひの
右みぎのの舞まひの
左ひだりのの舞まひの
右みぎのの舞まひの
左ひだりのの舞まひの

舞入一巻

上ノ部 武法

養徳入昇法書付
四人別及別付

増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 大礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は
 増礼の三終のま一あり。人子一生の大終なり。は

大車いりて嘗てきりて今もやまわらぬなり。とん
 のお積りなるをいひてさだ。せもあつて一命に
 を記し。増礼のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は
 のま一あり。人子一生の大終なり。は

養徳入昇法書

○ 遊方前お梅さま

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

長持 代九百目 兼持 代九百目 袴 代九百目 袴 代九百目

瑞子 東之山流代合まき目 ○ 嫁入法代月

此小書は小書といふ

ひんすぬいふことありき ○ 若き時より代月 ○ ちりて代月

○ 小のり代 ○ 祝代代々 ○ 計指代方々 ○ 張代代々 ○ 雛一對代

繞三面 ○ 又兼代々 ○ 兼代二々 ○ 兼代一 ○ たまごま

ゆりる鶴一對代々 ○ 小まね代代々 ○ 兼代代々 ○ 之代

大津代々 ○ 横倉探代々 ○ なたい ○ 枕燈傘り代々 ○ 結代

○ 新紙代 ○ ざら紙 ○ 御正座 小人代 ○ 那須高月

○ 書代 ○ 紙代 ○ 水引 ○ 大元入代 ○ 入代 ○ 入代

ゆえ思ひてさる代 ○ 先嫁入代 ○ 入代 ○ 入代 ○ 入代

あれい候合もさる代 ○ 入代 ○ 入代 ○ 入代 ○ 入代

○ 衣前物持者 ○ 使者持 寧秋持 人足持 枕持持持
嫁入書 ○ 算方前物入書
嫁入書 ○ 算方前物入書

○ 算方前物入書

人教役別い嫁方の注納くさく同奉く代 前物入付の人教

由是不法難入の代屋入くさる代 ○ 執事いりる人 ちりる

注納く推代いしたる代 ○ 注納く推代いしたる代

割をとりて考へる代

○ 嫁入當日さま

○ 算方前物入書 ○ 算方前物入書 ○ 算方前物入書

○ 算方前物入書 ○ 算方前物入書 ○ 算方前物入書

